

# 主体的に生活を営もうとする生徒の育成 ～制作活動におけるコミュニケーション力をもとめて～

技術・家庭科 中村正寛  
鶴見昭子

## 1. テーマ設定にあたって

昨年度は本校研究テーマのもと本教科の研究主題と副題を「主体的に生活を営もうとする生徒の育成～他との関わりによる「問題解決力」の深まりを求めて～」として学習展開を試みた。他者とかかわりながら共に問題解決にあたることを「共に学ぶ」と考えた。生徒たちが「共に学ぶ」体験を積み重ねることで、コミュニケーション力などが重要でいかに必要であるかなどを生徒自身に体得させるため、班での話し合いやクラス全体での意見交換の場を多く取り入れた。そして、授業を重ねていく過程で課題解決能力の深まりを目指した。

本年度は、サブタイトルを「制作活動におけるコミュニケーション力をもとめて」とし、一つの制作活動を通して、本校研究部作業仮説「異学年交流・異校種間交流授業を通して、上級生と下級生による学びの交流が行われ、学習内容の深化、学び方の習得の促進、コミュニケーション力の育成が期待できる。」を設定して、異学年・異校種（幼稚園児）間授業を通じた学びの実践を試みながらテーマに迫っていきたい。

## 2. 異学年・異校種間交流授業のねらいと位置づけ

技術分野では昨年度は、「他者とかかわる」「共に学ぶ」ことの育成の場として、「ものづくり」においての実技にかかわることを教えあう場面を設定した。たとえば、図のかき方として2種類のかき方がある。そこで、生徒全体を2グループにわけ、どちらかが1種類のかき方を理解し、それをもう一方のグループに伝え、交互に違う書き方を教えあうといった形式である。その時点で自分の知らないことを他人に知らせるためには、その事柄をより詳しく把握する必要があると、考えたからである。他者とかかわりを持ちながら、課題解決力の育成をはかった。しかし、同学年のためか、説明方法や、質問方法などに違いが出た感があった。今年度は、異学年交流において、次のように考えた。下級生は、上級生が1年生のときにおこなった「ネットワークトラブルの紙芝居」での授業より、作成した時や発表した時のよかった点や苦労した点、問題点などの経験を聞くことで、自分たちが紙芝居を作るときの参考とさせることができ、学びの深化があるのではないかと考えた。また、上級生は、先に下級生を対象として既習事項を説明することで、説明方法についてどのようにおこなえば、より理解してもらえるかを体験させることで、他者理解力が付き、同学年への説明時に役に立つと考えられる。

家庭分野では学習内容そのものに、幼児との交流を通して私（僕）理解を深めること。異年齢者との交流を通して、自分育てを確立することを学習のねらいとしている領域がある。これまで生徒は幼稚園訪問において、多くの学びを得てきた。園児たちにとっての学びの場であったかとの問いかけを基に、双方向の“学び”を求めて、異校種間交流学習が意義のあるものとなるよう進めたい。

## 3. 異学年間交流授業の指導計画と、実践内容

### (1) 指導計画

本校では、1年次の「総合的な学習の時間」からコンピュータを利用して学習を進めている。そのため、いろいろな情報を加工する際短時間に操作できることをねらい、技術分野では、1年生の前期に

「B 情報とコンピュータ(1)(2)(3)(4)」を指導している。他の内容と学年は、次のとおりである。

学年	前 期	後 期
1	B 情報とコンピュータ (1)(2)(3)(4)	B 家族と家庭生活 (3) A 生活の自立と衣食住 (1)(3)(4)
2	A 生活の自立と衣食住 (2)(5) B 家族と家庭生活 (4)(5)	A 技術とものづくり (1)(2)(3)(4)
3	A 技術とものづくり (6)	B 家族と家庭生活 (1)(2) 【両分野は隔週】

## (2) 実践内容

異学年間交流においての実践例として、1年次の「情報モラルのある快適な生活をくふうしよう」より「ネットワークトラブルの紙芝居」を題材にし、1年と2年との異学年交流を試みた。これは、現2年生が昨年度同様なテーマで取り組んでおり、テーマ設定後の調査方法やストーリー作り、場面割、発表時の注意点など、現2年生が未知の体験を通して学んだことを1年生へ伝えることで、自己有用感の体感ができる。また、1年生は上記の点を知るため、体験者である先輩からの知識を乞うことで自分たちのこれからの先をおぼろげながらも見通すことや、教科指導内容外の項目での留意点を知ることができ、制作意欲などの学びの深化があるのではないかと考えた。

「B 情報とコンピュータ」の内容(領域)の構成と交流授業は、次のようである。

- 1次 生活とコンピュータのかかわりを考えよう 3時間
- 2次 コンピュータの活用 3時間
- 3次 コンピュータの基本操作 4時間
- 4次 目的に合ったソフトウェア 4時間
- 5次 作品を作ろう 8時間
- 6次 情報モラルのある快適な生活をくふうしよう 13時間
  - 第一次 トラブルを知ろう 2時間
  - 第二次 ネットワークトラブルの紙芝居 10時間
    - ・先輩からつくりかたなどのアドバイスをもらおう 2時間(交流授業 2/2)
    - ・トラブルをさがそう 1時間
    - ・筋書きを作り場面わけをしよう(脚本作成) 3時間
    - ・せりふ、下絵、塗りつけ作業 2時間
    - ・紙芝居を発表しよう 2時間
  - 第三次 学習のまとめ 1時間

交流授業前時の終了間際に、1年生は質問用紙に尋ねるための質問内容(資料1)を、2年生には1年生からの予想される質問内容についての回答を用紙(資料2)に記入させた。

項目内容は、1年生は、

- ・先輩が取り組んだ題は
- ・あなたは、どのような点が尋ねたいですか

2年生は

- ・あなたが取り組んだ題は
- ・資料はどのような方法で集めたか

- ・紙芝居を作成しているときの問題点は
- ・紙芝居を作成しているときの問題点の解決方法は（今だから言える）
- ・紙芝居の発表時における注意点は
- ・紙芝居の発表時における注意点の解決方法は（今だから言える）。
- ・その他（先輩から後輩へ）

である。また、2年生は、交流授業の本時の前後は家庭分野を学習中のため、回答用紙（資料2）の前文に「2年生後期の技術分野では[ものづくり]をおこないます。ここでは工具を取り扱いますが、取り扱い方については、班代表のみが、先生の説明を聞いたり、実技を見たりした後に、班へ帰ってから他の班員に伝える（先生役）形式の授業を行う予定です。すなわち、他の班員に対して先生役の生徒の説明方法が不十分だと正しい使用方法や安全面に対してうまく伝わりません。しかし、経験をつむと少しずつ上手になっていきます。

そこで、今回は、1年生のときにおこなった「ネットワークトラブルの紙芝居」での授業を思い出し、良かったことや苦勞したこと、問題点などを先輩の立場から後輩へ伝えることで、伝え方（先生役）について学習してもらいます。」を記載した。

交流授業の対象クラスの編成は、1年はクラス全員、2年生は出席番号の奇数番、計約60名でおこなった。班構成は、男女同数、1年4名と2年2名を原則とした。2年を2名としたのは、1年が質問をする立場上萎縮することをできるだけ回避しようと思ったからである。

#### 4. 異学年間交流授業を終えて

##### (1) 交流授業での生徒感想より

交流授業を終えた後、「振り返ってみて、あなたは、なにを思い感じましたか」の項目に記入された感想の1部は次のようである。

##### ① 1年生

- ・コツや手順などが参考になった。(i)
- ・先輩の意見からどのようにつくればいいのかわかりました。構成など気をつけたいところ、工夫した点を考えてやりたいと思う。(i)
- ・どれもためになった、教えてもらったこともわかったので、これを活かしより深くしていきたい。(i)
- ・いろんなことがわかった。作業時間は少ないがだきるだけ頑張ろう。(i)(iv)
- ・始めは緊張したが、でもだんだんと緊張が解けていった。先輩はわかりやすく説明してくれました。(ii)
- ・すごくわかりやすい答えが返ってきて良かった。(ii)
- ・やさしかったし、答えもわかりやすく言ってくれたので良かったです。(ii)
- ・やっぱり、一度経験があると、すごくしつかりわかりやすく教えてもらえてよかったです。情報が豊富だと思った。そして2年生はすごいと思いました。(ii)(iii)
- ・情報がたくさんあり、すごいと思った。一年間という間にここまで違うので経験は大切だと思った。僕も2年生になったらこういうことができるようになりたいです。(iii)
- ・一度やっているのでアドバイスが的確だったのがすごいと思った。(iii)
- ・やはり知識が多くて、常にわかりやすい言い方でした。質問にはすばやく答えてくれました。

2年生は知識が豊富だと思いました。(iii)

- ・どうすればよいかわからなかった回答をわかりやすく教えてくれた。さすがだと思った。(iii)
- ・アドバイスをしてもらったことを活かして紙芝居を作っていきたいです。(iv)

1年生の感想を、次のような内容で分類し、その件数を見てみた。(複数該当 あり)

- i 「制作や発表時のアドバイスがわかった」…71件
- ii 「説明がわかりやすかった」……………10件
- iii 「さすがに先輩だと」……………10件
- iv 「頑張って取り組もう」……………14件
- v 「その他」……………6件

② 2年生

- ・あらかじめ、返答を考えていたが実際に伝えることは難しかった。もっと知識を増やす必要があると思った。(i)
- ・自分が思っていることがうまく伝わらなくなり、どのように伝えればよいのか考えてしまうことになった。改めて意見を伝える大変さを実感した。正直後輩ぐらいならスムーズに話が進むと思っていたが意外だった。(i)
- ・相手が聞きたいと思っていることに的確に伝えることは難しく、少しずつ経験をつみなれていくことが必要だと感じた。(i) (ii)
- ・分かりやすく伝えることは難しいことだと改めて感じました。もっと分かりやすく、言いたいことが伝えられると思っていたので、これを機に言葉について考えてみたくなりました。相手にうまく伝えられなかったけど言いたいことが少しでも伝えられていたら良いなあと思いました。(i) (ii)
- ・相手が本当に理解しているかどうかは相手が言ってくれないと分からないし、自分が相手に聞かない限り分からないと思った。初めは異学年交流は嫌だと思ったが結構楽しかった。(ii) (v)
- ・伝えることはまあまあできたと思う。初めは教室で自習をしたかったけど、終わってみると1年生とコミュニケーションが取れて楽しかったです。(iii) (v)
- ・伝えるのは大変だなーと思った。私は昨年成功できなかったので頑張りたい。(iv)
- ・初めは異学年交流は嫌だと思ったが結構楽しかった。後期の技術分野が心配になりました。(v)

2年生の感想を、次のような内容で分類し、その件数を見てみた。(複数該当 あり)

- i 「伝え方が難しい」……………27件
- ii 「難しかった原因や回避方法」……………19件
- iii 「上手くできた」……………3件
- iv 「声援」……………3件
- v 「その他」……………6件

(2) ネットワークのトラブルの紙芝居を終えて

紙芝居発表を終えてから、2年生からのアドバイスについて、どのような点が役立ったかを自由形式で記入してもらったところ、一人平均で3件ほどのアドバイスの活用が見られた。活用例は、次のようであった。

- ・紙をめくるタイミングを前もって決めていたので、本番でもきちんとめくれた。資料があまり見つかると聞いていたので、一人ひとりが違うページを開いたので、調べた内容がかぶらなかった。(i) (iv)
- ・キャラクターを使いそうになったけど、使ってはいけないということを思い出した。(ii)
- ・分かりやすく絵をかくことが分かりやすく内容を伝えるカギだということを知り、分かりやすくよりシンプルできれいな絵でみんなに伝えることができましたと思います。(iii)

活用されたアドバイスを次のような内容で分類し、その件数を見てみた。(複数該当あり)

- i 「ネットワークなどでの情報収集」……47件
- ii 「筋書き作りなどの脚本作成」……73件
- iii 「せりふ、下絵、塗りつけ作業」……60件
- iv 「紙芝居発表」……31件
- v 「その他」……19件

### (3) 成果と課題

交流授業は初めアイスブレイキングとして自己紹介の中に氏名のほか所属する部活動名や趣味を入れさせた。紹介後、1年生は前もって作成した質問(内容は、筋書きの組み立てや場面割り、絵を描くときの人物描写、描き方の注意点、作成時のトラブル、班発表時の細かな注意点など、教科指導内容外の項目が多かった)をした。これらは、昨年度に2年生が体験しており、同様な質問や経験をしているため回答しやすかったと思う。1・2年生とも上記には記載されていないが、初めはお互いが緊張し、なかなか話が進みにくいようであった。異学年交流のときは、もう少し話題を多くとってアイスブレイキングをしっかりとこなう必要性を感じた。しかし、どの班も2年生が自然にリーダーシップをとって学習を進めてくれた。2年生の約25%が「伝え方が難しい」と記しているが、1年生の感想を見ると、「説明が難しく、よくわからなかった。」という感想は無かった。また、「制作や発表時のアドバイスがわかった」や「説明がわかりやすかった」などの合計件数を見ると、大多数の1年生は理解したと思われる。1年生の感想には「わかりやすい」という言葉が多数見受けられた。これは、彼らに自然に身につけている他者理解力ではないかと思う。このような発表方法を多くの場で経験する機会を与えることで、他の生徒も感化されていくと思われる。

交流授業を通して、1年生は作品(ネットワークトラブルの紙芝居)完成までの見通しが立ち、知識理解への進展がみられたと思う。2年生は、コミュニケーション力の必要性や方法の習得法などを理解することができたのではないかと思う。2年生前期は、家庭分野を履修中でこのときだけが私の指導となり、次は後期が始まる(10月10日以降)まで直接指導しないので、詳しい成長のあとを見ることができない。後期「技の伝達」で今回の体験を上手に生かし、先生役や生徒役をして欲しいと期待している。

今回の授業の課題は、2年生のクラス半分の生徒の扱いである。たまたま今年度は、1年生と2年生が同じ曜日の同時時間帯に技術分野と家庭分野の授業をしている。当日の2年生は、家庭分野の先生の指導の下、実技での制作をおこなっていた。教室に残った出席番号偶数の生徒たちは、制作の続きをおこなった。しかし、交流授業に参加した生徒は、制作の時間が減少することとなった。そのため、制作に必要な時間を通常より1時間多くとってもらった。今後、異学年交流をおこなうとすれば、この分野領域でいつおこなえばよいか課題の1つとなった。

No.

Date

「ネットワークトラブルの紙芝居」について

ネットワークを使うといろいろなトラブルにまきこまれることがあります。そこで各班で、1つのトラブルについて追求してもらいます。それをもとに紙芝居をつくり、みんなの前で発表し、お互いに理解していく授業とします。

今日は、先輩から作成時のことや発表時のことで、よかった点や苦労した点、問題点などを、お話しいただき、君たちが紙芝居を作るときの参考とする時間とします。

発表者 2年 3組 番 名 前

2年 3組 番 名 前

私 3組 番 名 前

班員① 3組 番 名 前

班員② 3組 番 名 前

班員③ 3組 番 名 前

先輩が取り組んだ題は

インターネットのフックとコンピュータウイルス

あなたは、どのような点が尋ねたいですか

尋ねたい点①

どのように調べたか?

回答 インターネットや教科書を利用した。

尋ねたい点②

紙芝居にまきこめる上で苦労したことは?

回答 起承転結各所にまきこめることに苦労した。

No.

Date

尋ねたい点③

として、その選んだ題にした理由は?

回答 自分たちの身近で起きていることについてかき知りたいから。

尋ねたい点④

調べている時、まとめている時にどのような問題点が出たか?

回答 インターネットで調べるとどこか必要な情報が、分かがなくなる。特に、紙芝居に載せる時、仮定例に集中してしまうことがある。

質問以外で新たにわかったこと

調べ時、インターネットは確かに便利だが、自分たちが必要とする情報と役にない情報を見分ける必要がある。

関係のない情報を致し、自分たちのテーマに合わない。

起 → 起ったこと。 承 → 起ったことの経過。 転 → しかと。 結 → 終わり。 初め、水沢 例、ストーリーに集中すると、内容が浅くなる。 笑いをいれるよい。

初め、水沢にわかった。(本当に若干、若干です)

振り返ってみて、あなたは、なにを思い感じましたか

→ 思ったより優しい2年生だった。

調べることで、まとめることで、難しいことや問題点はかたがある。

自分の中で、取り組む前にしかり、過程や工夫を考えた、必要がある。

技の伝達 0  
— 相手にうまく伝えよう —

2年生後期の技術分野では「ものづくり」をおこないます。ここでは工具を取り扱いますが、取り扱い方については、班代表のみが、先生の説明を聞いたり、実技を見たりした後、班へ帰ってから他の班員に伝える（先生役）形式の授業を行う予定です。すなわち、他の班員に対して先生役の生徒の説明方法が不十分だと正しい使用方法や安全面に対してうまく伝わりません。しかし、経験をつむと少しずつ上手になっていきます。

そこで、今回は、1年生のときにおこなった「ネットワークトラブルの紙芝居」での授業を思い出し、良かったことや苦労したこと、問題点などを先輩の立場から後輩へ伝えることで、伝え方（先生役）について学習してもらいます。

あなたが取り組んだ題は

ウウイルス

資料はどのような方法で集めたか

インターネットでウウイルスについての資料を集めた。  
たまにウウイルスにかかった時の体験談もあればそれも参考にすると良いと思う。

紙芝居を作成しているときの問題点は

字は入れられないのでたいたいの様子がおか  
おおまかな絵にしたほうが良い。

紙芝居を作成しているときの問題点の解決方法は（今だから言える）

絵が下手であってもとにかく分かりやすいということを中心に書いて書く。

紙芝居は発表時における注意点は

声は大きく、絵にあわせてセリフをゆくりという。

紙芝居は発表時における注意点の解決方法は（今だから言える）

何回も練習したり、セリフのカーンに矢張りなどかか。

その他（先輩から後輩へ）

紙芝居で伝えるのでストーリーも大切です。分かりやすく伝えるにはどうすれば良いか考えておんはって下さい。

今回の授業で

私は 2年 3組 1番 名前 前 夫  
2年 3組 2番 名前 前 夫  
後輩① 3組 7番 名前 前 夫  
後輩② 3組 1番 名前 前 夫  
後輩③ 3組 2番 名前 前 夫  
後輩④ 3組 2番 名前 前 夫

後輩からどのような質問が出ましたか

苦労した点は？（調べる時）  
トラブルにまきこまれなかったためには？  
どのようにストーリーを作った。  
工夫したこと  
問題点の解決方法

振り返ってみて、伝えることに対してどのようなことを、思い感じましたか

始めは件だし来たろうかと思っていましたが、知らない人にわかりやすく伝えるのはむしろおもしろいと思っ  
た。